



歯科医・彌勒寺寛之の

視界良好!

第3章 一見きれいな詰め物。実は裏側は錆びていた!

保険の詰め物やかぶせ物には「金パラ」という金属材料を使用しています。金パラの成分は、金12%、パラジウム20%、銀50%、銅15%、他3%の銀合金でできています。これは、約40年も前に厚生労働省(以前の厚生省)が決めた比率です。実はこの数字、体への安全性を考えて作ったものではなかったのです。

当時金属の研究者の団体・歯科理工学会理事である愛知学院大学の理工学教授によると、昭和30年頃の金属は金、しかも20カラットの金をかぶせ物に、詰め物には24金を使っていました。当時、金は非常に高価で、手に入りにくい物でした。厚生労働省は健康保険に使用する純金に代わる代用歯科用合金の開発を理工学会の理事の教授に命じたのです。

当初金の含有量は20%程度入っていました。それでも、厚生労働省はもっと金の含有量を下げようというのを厚生労働省は聞かず、12%の金にしてしまったということでした。開発当時から、金の代用品だったのです。ということは? その当時の国の財政を最優先に考えた結果、決めた割合でしかありませんでした。

実際、調査によると、歯科用の金合金は金、白金、パラジウムなどの貴金属が75%以上含まれていないと、化学的に安定せずお口の中で溶け出します。つまり、金パラは生物学的に問題があり安全とは言えないのです。特にパラジウムと銅は金属アレルギーを起こしやすく、アメリカ・ヨーロッパでは使われない傾向にあり、金パラという合金はアメリカ・ヨーロッパの歯科医院では使用されていません。このように、金パラは金合金の安価な代用品として、日本だけで使用される歯科用合金だっ

第17回

歯医者が自分の家族には保険の

かぶせ物を入れない本当の理由! ②

たのです。

あなたにも、ある日突然詰め物が取れて、裏を見ると真っ黒になっていて、「これって大丈夫なのかな?」とびっくりされたことがあるかもしれません。確かに、保険の物を入れても、ほとんどの場合すぐに病気になるというわけではありません。

しかし、もし歯医者である私が、私の大切な家族にかぶせ物を入れる場合、やはり保険のものは入れません。口の中で徐々に金属が溶け出し、それを毎日飲んでいる事を考えると…。ぞ～っとして怖くなります。

事実、私の父親・母親・妹の治療を今までしてきましたが、誰一人として保険の材料(金パラ)を使ったことはありません。「セラミック」という素材を使ったのです。私だけでなく、ほとんどの歯医者さんは、自分の家族には体に良い物を入れます。

第4章 歯医者が自分の家族には保険のかぶせ物を入れない本当の理由

では、なぜ今まで歯医者さんは、あなたに歯の材料のことを詳しく教えてくれずに、保険のかぶせや、詰め物を入れていたのでしょうか?

説明するのが面倒くさかったのでしょうか?

材料についてあまり知らなかったのでしょうか?

おそらくそれもあると思いますが、いちばんの理由は「短い時間で、歯科材料の説明をして、高い物を押しつけられたと患者さんに誤解されないだろうか」ということが心配なのです。

誤解されるくらいなら、黙って保険の物を入れておこうと考えるわけです。わかっている…。

今回は、視界良好の最終回、これまでのまとめになります。



～著者プロフィール～

みろ歯科院長(2012年10月1日新規開院) 彌勒寺 寛之(みろくじ ひろゆき)

住所 宇都宮市中央2-4-8 TEL 0120-814-364 (URL) <http://tda86.com>

所属学会

日本口腔インプラント学会 日本歯科審美学会 日本歯周病学会

日本小児歯科学会 日本ヘルスケア歯科研究会

※学会で得た知識を活かして、個人的に無料相談室を開設しました。

お口のことで疑問に思っていることなどがありましたら、お気軽にご相談下さい。当クリニックのホームページからメールで受け付けています。

(この無料相談室は予告なく終了することがありますので、ご了承下さい。)

